

樞密院會議筆記

帝國憲法第八條ニ依リ東京府内
一定ノ地域ニ戒嚴令ノ全部又ハ一
部ヲ適用スルノ件
新聞雜誌ノ取締ニ關スル件

明治三十八年九月六日午後二時三十分開議
聖上臨御不被為在

出席員

議長

東久世副議長

大臣

桂 總理大臣 六番

山本海軍大臣 七番

芳川内務大臣 八番

清浦農商務大臣 九番

曾禰大藏大臣 十番

寺内陸軍大臣 十二番

波多野司法大臣 十三番

大浦逋信大臣 十四番

久保田文部大臣 十五番

顧問官

樺山顧問官 十九番

福田顧問官 二十番

田中顧問官 廿三番

細川顧問官 廿五番

河瀬顧問官 廿六番

大島顧問官 廿八番

九鬼顧問官 廿九番

杉 顧問官 卅一番

蜂須賀顧問官 卅二番

野村顧問官 卅六番

黒田顧問官 卅八番

西 顧問官 卅九番

税所顧問官 四十一番

缺席員

議長

伊藤議長

皇族

嘉仁親王

一番

貞愛親王

二番

威仁親王

三番

載仁親王

四番

依仁親王

五番

大臣

小村外務大臣 十一番

顧問官

山縣顧問官 十七番

松方顧問官 十八番

佐々木顧問官 廿一番

尾崎顧問官 廿二番

海江田顧問官 廿四番

中牟田顧問官 廿七番

高崎顧問官 三十番

高島顧問官 卅三番

伊東顧問官

世四番

岩倉顧問官

世五番

林 顧問官

世七番

青木顧問官

四十番

委員

一 木法制局長官

報告員

都筑書記官長

書記官

穂積書記官

柴田書記官

議長(東久世)

本日緊急勅令案御詔詢相成リ夕

ルニ付唯今ヨリ會議ヲ開ク即帝國憲法第八條

ニ依リ東京府内一定ノ地域ニ戒嚴令ノ全部

又ハ一部ヲ適用スルノ件及新聞紙雜誌ノ取締

ニ關スル件是ナリ第一讀會ハ朗讀ヲ省略ス

報告員(都筑)

昨日來都下ノ騷動ハ實ニ容易ナ

ラ又次第ナルニ付至急之ヲ鎮壓シテ人心ノ

動搖ヲ防クノ必要アリ而シテ現在ノ警察ノ
力ニテハ到底之ヲ如何トモスルコトヲ得サル
ヲ以テ今ハ最早戒嚴令ヲ布クノ外無シ而シ
テ戒嚴令ヲ布クニツキテハ其ノ儘戒嚴ヲ宣
告スレハ何モ仔細ナキカ如キモ斯リテハ東
京ヲ臨戰地境ト認メサル可ラス此際輦轂ノ
下ヲ以テ臨戰地境ト認ムルカ如キコトアラ
ハ激昂セル民衆ヲミテ却テ益激昂セシムル
ノ基トナルヘク且ツ戒嚴宣告ハ陛下カ直接
ニ行ハセラルルコトナルヲ以テ事體極テ重

大ナリ緊急勅令モ陛下カ發セラルルモノナ
ルヲ以テ戒嚴令中規定スルカ如キ事柄ヲ戒
嚴宣告ノ形式ニ依ラス今少シ柔軟ナル方法
ニテ別ニ大權ヲ傷ケス目的ヲ達シ得ルコト
ト思フニツキ朱書ノ通原案ヲ修正シテ原案
ノ趣旨ノ貫徹ヲ計ラントス次ニ新聞紙雜誌
ノ取締ニ關スル件ニツキテハ是亦此際嚴重
ノ取締ヲ必要トシテ發行停止ヲ再ヒ設ケ又
現行法ニ依レハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ
變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ

記載シタルトキハ之ヲ罰スルト謂フニ止マ
ルモ此ノ案ニ依レハ此等ノ論説ニ止ラスハ
テ此等ノ事項ヲ記載シタルトキハ同シク取締
リ得ルコトト為シ又其ノ發賣頒布ヲ禁止ス
ルニ止ラス尚以後ノ發行ヲ停止スルコトラ
得ル次第ナリ今一ツハ従前ハ新聞紙ヲ發行
スルニハ十四日以前ニ届出ヲ要シタルニ今
日ニ於テハ別ニ其ノ期限ナキヲ以テ假ヘハ
日本ト謂フ新聞ヲ停止スレハ直ニ大日本ト
謂フ新聞ヲ發行スルカ如キコトアリテ折角

ノ發行停止ノ目的ヲ達シ得サルヲ以テ之ニ
備フルカ為ニ第二條ノ如キ制限ヲ設ケタル
モノナリ次ニ第三條ハ罰則第四條ハ自首減
輕再犯加重數罪俱發等ヲ適用セサルコトラ
規定シタルモノナリ而シテ以上二案ハ共ニ
即日施行ト為シアリ昨日米ノ都下ノ騷擾ノ
模様ニ依レハ今騷動ノ始マリニ當リテ充分
之ヲ鎮制スルコトラ必要トス明日ハ市民大
會ヲ催ス次第ナレハ本令ノ發布ハ實ニ非常
ノ至急ヲ要ス依テ先刻御下付アリタルニ付

別ニ審査報告書ヲ發セス直ニ本會議ヲ開カ
レタルナリ速カニ御可決アラニコトヲ望ム
六番(桂) 唯今閣下等ノ御前ニ提出致シタル緊
急勅令案ノ大體ハ書記官長ヨリ報告セラレ
タル通ナレハ重テ説明スルノ必要モ無カル
ヘシト信ス真ニ此ノ兩緊急勅令案ノ御裁可
ヲ仰リコトハ上陛下ニ對シ奉リ恐懼ノ至ニ
堪ヘス目下ノ狀況ニテハ現存セル諸法律ヲ
以テ形勢ヲ都合良ク挽回シ騷擾ヲ鎮定スル
コトハ困難ナリト思フ故ニ兩案ノ緊急勅令

ヲ御發布ヲ仰キ可成速カニ諸般ノ狀況ヲ舊
ニ復スル考ナリ何レ他日御席ニ提出セラレ
テ閣下等ノ御審議ヲ經サセラルルナラニカ
略御承知アラセラルル如ク昨年来未曾有ノ
大戰ノ繼續ニ来リタル日露戰爭モ此頃ニ至
リテ漸リニ和局ヲ結ハントスル機ニ達シ唯
今ハ實ニ尤必要ナル時機ナリ然ルニ目下ノ
如キ狀況カ殊ニ輦轂ノ下ニ於テ此上永ク續
クカ如キコトアラハ外國ニ對シテモ實ニ體
面甚宜ニカラサルコトト思フ依テ前ニモ述ヘ

ミ如ク閣下等ノ御協賛ヲ仰クコトトセリ何
卒書記官長ヨリモ述ヘラレシ通一刻ヲモ多
クヘキ緊急ノ案ナレハ宜シク御諒察アリテ
速カニ御賛成アラニコトヲ希望ス

二十番(福岡) 本官ハ大體ニツキ一言希望ヲ述
ヘニ今日緊急勅令案ヲ御提出ニ成リタル次
第ハ成程事實已ムヲ得サルニ出テラレタル
ナラニカナレトモ昨日以來ノ都下ノ有様ヲ
現出スルニ至リタルハ實ニ失體ナリ然ルニ
其ノ失體ヲ取り回スニ警察ノ力ニテ充分ナ

ラス兵力ヲ要ストテ緊急勅令ヲ發シテ戒嚴
令ヲ布カレ之ニテ漸ク鎮壓セララルトアリ
テハ誠ニ甚シキ失體ナリト思ハル且又此ノ
如キ勅令ヲ御發布ニ成レハ愈益人心ヲ激昂
セシマルニ至ラン寧ロ當然ノ警察力ヲ以テ
鎮撫セララルヲ得策ト思フ依テ本官ニ於テ
ハ今日ノ西案ハ可成御見合セニ成ランコト
ヲ望ム

十九番(樺山) 今日ノ緊急勅令案ニツキ二十番
ヨリ意見ヲ述ヘラレタルカ本官モ大體同意

ナリ目下輦轂ノ下ニ於ケル景況ハ實ニ言フ
ニ忍ヒス然シ乍ラ實際ノ状況此カル勅令ヲ
發セラレサル可ラサルニ至レルカ又此ノ如
キ勅令ヲ御發布ニ成リテ御決行アル曉ハ其
ノ結果ハ如何アルヘキヤ諸君ハ如何思召サ
ルルヤ僅カニ二三時間ノ間ニ立口ニ鎮壓ノ
効力アルヘキヤ余ハ其ノ結果ニツキ實ニ杞
憂ニ堪ヘサルナリ余ハ唯新聞紙ニ記載スル
所ニ依リテ想像スルノミニテ未タ精シク昨
日來ノ状況ヲ知ラス然シ鬼モ角講和談判ノ

模様ニ依リテ此ノ如キ民心ノ動搖ヲ来スニ
至リタルナリ即此上講和ノ成立スルニ至ル
トキハ或ハ志士ノ暴行ヲ為スモノアルニ至
ルヤモ知ル可ラス當局者カ此ノ時ニ際シテ
治安ヲ豫防スルコトニツキ又秩序ヲ維持ス
ルコトニツキ如何ナル處置ヲ取ラルル御考
ナルヤ又緊急勅令御決行後ノ結果ニツキテ
ノ御見込ハ如何御同致シタシ實ニ今日ハ我
々其モ非常ニ驚ケリ昨年来前古未曾有ノ時
局ニ對シ當局者ハ殆ト寢食ヲ忘レテ内外ニ

施設ヲ施サレ外ニ在ル軍隊ハ後顧ノ憂ナリ
戰ハハ勝チ攻ムレハ取り我カ海軍ハ殆ト十
箇月間引續キ其ノ任務ヲ盡シ氣候ト戰ヒ寒
暑ト戰ヒ以テ波羅的艦隊ヲ擊破シ之ヲ殲滅
セシメテ殆ト全世界ヲ震動セシメタリ我カ
陸軍モ亦前進毎ニ好結果ヲ得テ或ハ饑渴ヲ
凌キ或ハ風雨寒暑ニ曝サレ乍ラ勁敵ヲ漸次
擊退シタリ就テハ聖天子ノ御威徳ト當局各
位ノ刻苦勵精トニ依リテ充分良好ナル效果
ヲ見ルコトヲ得ニト期待シタルニ然ルニ其

ノ今日反對ノ結果顯ハレ數十萬ノ我カ滿洲
ニ在ル兵士ノ士氣ニモ影響ニ聖天子ノ宸襟
ヲ悩マサセ奉ルニ至リタルハ實ニ悲シク嘆
ハシキ次第ナリ當局者ニ於テモ今日我國ノ
現状ヲ見ラレナハ講和談判ノ結果殆ト我國
ノ秩序ヲ亂スニモ至ラントスル有様ヲ深ク
御心配アラセラルルナラム殊ニ輦轂ノ下ニ
於テ此ノ慘澹タル状態ヲ呈スルニ至リタル
ハ前代未聞ノ事ニシテ嘆キテモ尚餘アル次
第ナリ此カル行掛ナレハ此ノ事情ノ起ル原

因ト執ル所ノ措置ノ結果トヲ能ク能ク充分
ニ鑑ミタル上ニテ即其ノ結果ノ如何ニ為ル
ヘキヤヲ承知シテ決定シタシ

三十八番(黒田) 唯今十九番及二十番ヨリ御意

見アリタルカ本官モ至極御尤ノコトト感ス
全體戒嚴令ハ平常ノ時ニ行ハルヘキモノニ
アラスシテ敵軍ノ攻来リタル非常ノ時ニ於
テ始テ行ハルヘキモノナルニ今日帝都ニ之
ヲ布カハ人心ヲ一層反動セシメサルヤ只今
ハ全國ノ人心ハ餘程激昂セルヲ以テ唯無暗

ニ之ヲ鎮壓サヘスレハ宜シト言フヘキニア
ラス又帝都ニ漫然戒嚴令ヲ布キテハ陛下ニ
對シ奉リテモ恐レ多キ次第ナリ就テハ當局
者ニ於テモ此ノ際充分一般ノ人心ヲ收攬ス
ル御考アリテ然ルヘキモノト思フニ唯抑壓
スルノミニテハ果シテ如何アルヘキ一應御
反省アリ御再考アリタル上愈已ムコトヲ得
ストナラハ本案ヲ御提出ニ成リテ然ルヘキ
モ餘リニ事急ニ成サレテハ却テ狼狽ノ姿ニ
見ユルナラント思フ暫ク御再考アリテ愈已

ムヲ得サルニ至ラハ御上奏アルヘシ昨夜出
ノ景況ハ至急ニ鎮定セサル可ラストノコ
ナルヘキモ別ニ戒嚴令ヲ布リ迄ニハ及ハサ
ルヘシ至急ニ警察官ヲ増加シテ鎮定セラル
ヘシ若シ東京ニ充分ノ警察官ナクハ至急近
縣ノ警察官ヲ召集セラレテ此ノ急ニ應セラ
ルヘキモノト思フ

三十九番(西) 段々各顧問官ヨリ御意見アリタ
ルモ今日ノ場合暴徒カ既ニ各處、放火ヲ為
シテ都下ヲ騷カニ廻ル次第ニテハ原案ノ如

キ緊急勅令ヲ發布スルモ亦實ニ已ムヲ得サ
ルコトト思フ依テ本官ハ已ム無ク本案ヲ賛
成ス

四十番(税所) 本官ハ三十八番及十九番等ノ御
意見ニ同意ナリ何トナレハ昨日米ノ暴動ニ
ツキテ今俄カニ帝都ニ戒嚴令ヲ布リカ如キ
ハ陛下ニ對シ奉リテ恐レ多キ次第ニシテ何
トカ他ニ鎮定ノ途モ付クヘキヲ以テ本案ハ
見合ハサルル方宜シカラント思フ

報告員(都筵) 先刻米ノ御質問ニ依リテ報告ノ

際稍申残セシカト思フ事柄ヲ一二補ヒ置カ
ニ別ニ議論ニ涉ルニハアラス本案ニツキテ
ハ戒嚴令ノ適用ニシテモ新聞紙雜誌ノ取締
ニシテモ其ニ鎮壓ノ手段トシテ發布スル次
第ナルカト問ヒタルニ平時ニ於テハ普通ノ
警察ニテ何等差支ナキモ然レ時勢ノ變遷ニ
應ニ尋常ノ警察ニテ彌縫ニ得サル場合アル
ヘシ御承知ノ如ク地方官官制ニハ警察權ニ
ツキテ尋常ノ警察力ヲ以テ彌縫ニ得ル場合
ヲ見テ第八條ノ規定アリ即知事ハ非常急變

ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ為兵備
ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シ
テ出兵ヲ請フコトヲ得ルナリ然レ乍ラ必シ
モ平時ニ存在スル警察及此ノ規定ニ依ル處
置ニ依リ如何ナル事變アリトモ差支無ク行
キ得ルモノニハアラス今般本案ヲ提出セラ
レテ緊急勅令ヲ發セラルルモ是レ實ニ萬一
ノ變ニ備フルモノニシテ昨日来ノ有様ニテ
ハ到底此儘ニテハ萬般ノ事ニ治安ヲ保ツヲ
得ス今日ヨリ以後モ固ヨリ従前ノ通ニ行フ

積リナルモ唯安心シテ警察權ヲ行フ豫備條
件トシテ本緊急勅令ヲ出シ置キタシトノコ
トナリ然ラハ目下ノ状態ヲ挽回スルニハ果
シテ鎮壓ノミニテ成效スヘキヤト問フニ或
ハ他ニ取ルヘキ手段ヲ要スヘキモ夫レハ本
問ニハ直接ノ關係ヲ有セス寧ロ問題外ナル
ヲ以テ別ニ之ヲ述ヘサルナリ願クハ西顧問
官モ申サレタル如ク本案モ今日ニ必要ニシ
テ已ムヲ得サル所ナリトノコトニテ本案ヲ
通過セシメラレムコトヲ望ム

八番芳川 先刻来本勅令案ニツキテノ段々ノ
御質問拜承セリ第一ニ今日ノ場合此ノ如キ
勅令ヲ發セサレハ治マラヌト言フハ平生ノ
施政上宜シキヲ得サルモノニテ矢體ナラサ
ルヤトノ御質問アリ尋常ノ警察ニテ此ノ場
合ヲ彌縫シ得スシテ緊急勅令ヲ發セサル可
ラサルニ至ルハ施政宜シカラサレハナリト
ノ御叱責ハ御尤ト思フモ御質問者ニ御一考
ヲ煩シタキコトアリ若シ緊急勅令ヲ發布セ
ストモ如何ニカ出来得ル限リハ之ヲ發布セ

スシテ遣ル積ニテ當局者ニ於テモ百方苦
シタリ御承知ノ如ク日露開戦以來舉國一
出征軍ハ艱苦ヲ凌キテ奮闘シ内ニ在ル國民
ハ之カ後援ヲナシ能ク世界ヲ聳動スル程ノ
成效ヲ奏シタリ當時官民ノ間ニ何等ノ扞格
ナカリシナリ然ルニ過般平和談判ノ開始以
來前日一致ノ態度トハ全然變化シテ甚喧
クナレリ此ノ如クナラハ果シテ和局ノ成立
ニタル曉ハ如何ナル狀況ニ立至ルヘキヤ深
ク憂慮セラル思フニ講和談判締結サルルト

キハ容易ナラヌ困難到來スルモノト豫想セ
サルヲ得ヌ其ノ場合ニ果シテ尋常ノ警察力
ニテ充分之ヲ取締リ得ルヤ心配ノ至ナリ好
マシカラサル乍ラモ緊急勅令ヲ要スルナラ
ムト思フ此カル場合ニハ實ニ已ムヲ得スト
シテ夫迄ハ尋常ノ警察ヲ以テ事ニ從フノ外
ナシト考ヘ居リタリ然ルニ不幸ニモ豫想ニ
違ハス昨今ノ如キ有様ニ到來セリ豫テ考ヘ
居リタル不幸ノ状態ニ立至レリ而シテ本官
ハ實ニ其ノ衝ニ當リ尋常警察力ニテハ彌縫

シ得ス故ニ此ノ際萬已ムヲ得サル事トミテ
遺憾乍ラ此ノ緊急勅令ノ發布セラレシコト
ヲ奏請シタルナリ此ノ如キ状態ニ立至リタ
ルハ失體ナラスヤトノ御言葉ニ對シテハ如
何ニモ失體ナルヘキモ此ノ際ハ只此ノ勅令
ヲ出スノ外道ナシト思フ依テ茲ニ本案ヲ提
出シテ御協賛ヲ仰リ次第ナリ本案提出ニ至
リタル事情並ニ今日此ノ案ヲ出スニアラサ
レハ致方ナキ次第ヲ概略申上ケ置ク
二十三番(田中) 先刻来ノ各顧問官ノ御意見ニ

大體賛成ナリ緊急勅令ノ案ニテハ別ニ命令
ノ定ムル所ニ依リトアルヲ以テ此ノ別ニ定
ムル所ノモノハ如何ナルモノナルヤ承リタ
シ兎ニ角今日直ニ此カル勅令ヲ出サレスト
モ別ニ差支ナシト思フ現ニ地方長官カ非常
急變ノ場合ニ兵力ヲ要スルトキハ地方官官
制ニ依リテ出兵ヲ請フコトヲ得ルニアラス
ヤ若シ果シテ本案ノ如キ勅令ナケレハ兵ヲ
出スコトヲ得ストナレハ昨夜近衛兵ヲ繰出
サレタルハ何ニ依リテ為サレタルカ全ク官

制第八條：依リテ行ハレタルナラニ故：人
後モ此ノ規定：依リテ行ヒ得ヘキ筈ナリ
：昨夜ノ事變アリシカ為：今日本案ノ如キ
勅令ヲ出サルルハ如何ニモ早急：過クルモ
ノト思ハル依テ本官ハ十九番二十番等ノ意
見：同意シ本案ハ當局者：於テ御再考アラ
シコトヲ希望ス

委員（木） 唯今御意見中：幾分カ御質問モア
リシヤニ承知シタルヲ以テ御答スヘシ命令
ノ定ムル所：依リトアリテ別：如何ナル事

ナルヤ定メアラサルモ大體戒嚴令中臨戰地
境：關スル規定ヲ適用スル考ナリ然シ結果
ハ同一ナルモ別：臨戰地境ナル名ヲ出サス
シテ實際上ハ之ト同一ナル事ヲ行ヒ度キ希
望ナリ又現行法：テ行ヒ得ルナラハ夫レニ
越シタルコトナキモ現行法：テハ到底其ノ
目的ヲ達シ得サルナリ成程地方官官制第八
條：依リ知事ハ出兵ヲ請フコトヲ得ヘキモ
是レハ先ツ警察官：テ充分力ヲ盡シタル上
尚鎮靜シ得サルニ至テ始テ出兵ヲ請ヒ得ル

モノニシテ此ノ如キコトニテハ充分敏活
ル働作ヲナスコトヲ得ス又兼テ重大ナル
罪ヲ防クコト充分ナラス今日ノ場合各種ノ
犯罪行ハレ殊ニ教唆犯モ多ク又國交上ニモ
關係ヲ及スヘキ重大ノ犯罪行ハレントスル
ニ之ヲ其儘ニ成行ニ任セ置クコトヲ得サル
ナリ

三十二番(蜂須賀)

段々御説モアリタルニ付本
官ハ差控ヘタキモ如何ニモ容易ナラヌ大問
題ナルヲ以テ一言述ヘタシ本案ヲ提出セラ

レタルハ昨日米都下ニ不穩ノ狀況アリタル
ヲ為ナリ而シテ人民ニ不穩ノ狀況アルニ至
リタル原因ハ満足ナラサル講和成リタルカ
為ナリト察スルノ外ナシ勿論和約成立シタ
ルコトハ總理大臣ノ御言葉ニ依リテ始テ承
知セリ世上ニテハ如何ニモ不利益ナル和約
成リタル如ク感シ居レリ然レ和約カ果シテ
成立シタルヤ否ヤ尚疑ノ中ニ在リタルナリ
然シ乍ラ和約カ如何ニ結局ニタルヤハ今日
別ニ伺ハストモ他日之ヲ伺フノ機アルヘシ

ト思ヘトモ假リニモ斯ノ如ク人心ノ激昂
ルハ空前ノ大戦争ニ於テ未曾有ノ勝利ヲ得
タルニ拘ラス談判ニテ我ニ充分ノ利益アル
結局ヲ見ルコト能ハサリシ為ナルヘシ人心
ノ激昂之ニ依リテ来ル是實ニ已ムヲ得サル
コトナリ折角ノ連戦連捷ハ少クトモ其ノ光
榮ヲ減少シタルコト是レ事實ナリ之ニ對シ
テ此ノ如キ緊急勅令ヲ出シテ戒嚴令ヲ適用
シ又一ツニハ新聞紙條例ヲ改正シテ三十年
以前ノ發行停止ノ制ヲ復興スルコトハ益民

衆ノ激昂ヲ増サシマル所以トナルヘシ故ニ
各顧問官ニ於テモ深ク御憂慮アリテ御意見
ヲ述ヘラレタルハ御尤ナリ然シ今日ハ尋常
ノ警察ニテハ治安ヲ維持スル能ハストナラ
ハ本勅令ヲ御出シニナルモ亦已ムヲ得サル
コトト思フ然シ只今モ述ヘシ通騷擾ノ動機
ハ講和條約ニ在リ昨日ノ如キ騷動カ輦轂ノ
下ニ於テ起リタルコトハ總理大臣ノ言ハル
ル如ク實ニ陛下ニ對シテ御恐縮ナルヘキハ
其ノ苦ナリ本勅令ヲ出サルルトキハ益民衆

ノ激昂ヲ招クヘキハ已ムヲ得サル次第ト用
フニツキ内閣諸公ニ於テモ充分御恐縮ノ意
ヲ以テ人心ノ激昂ヲ緩和スルカ為ニ御恐縮
ノ態度ヲ示サルルコトカ至テ必要ナラント
思フ唯一概ニ抑壓ノミニテ行カントセハ却
テ人心ハ激昂ニ激昂ヲ重ヌルコトナラン
ノミ一應其ノ緩和手段ニ関シテ何等カ御考
アルヤヲ伺ヒタシ

二十八番(大鳥) 本官ハ二案ヲ拜讀シテ尚翰長
ノ御報告ト首相ノ御説明ニ依リ能ク了解シ

タリ依テ戒嚴令ノ方ハ賛成ス内閣ニ於テモ
今日ノ場合實ニ已ムヲ得サルナラン是迄在
ル規則ニ依リテ濟マシ得ルナラハ無論左様
ニ致シタキモ夫レニテハ濟マシ得サルヘキ
カ故ニ實ニ本令ヲ出スハ已ムヲ得サルナリ
唯之ヲ濫用セサル様ニ致シタシ實際上出来
得ル丈ケ穏カナル手段ヲ取り戒嚴令ノ手段
ヲ取ルハ已ムヲ得サル場合限リトセラレ度
シ新聞紙條例ノ方ハ反對ナリ無暗ニ亂暴ナ
ル事柄ヲ書クトモ之ハ敢テ急ニ壓フルニ及

ハス唯亂民カ暴行ヲ為ス行クハ實ニ之ヲ
急ニ壓止スルノ必要アリ即本官ハ甲案ハ
成シ乙案ハ御再考ヲ請フモノナリ

六番(桂) 段々御意見アリタルカ此ノ際一言御
参考ニ供スル為ニ申上ケニ漸ク昨日起リ
ル事柄ニツキテ今日直ニ本案ヲ提出スルコ
トハ本官モ甚遺憾ニ思フ所ナリ唯本案ヲ發
布スルニアラカレハ形勢ヲ挽回スルコト到
底困難ナリト思フカ為已ムヲ得ス提出シタ
ルナリ然レ乍ラ戒嚴令ヲ布キシトテ徒ラニ

兵力ヲ弄スルトカ或ハ此ノ力ニ依リテ鎮壓
スルト曰フコトカ本心ニハ非ス唯奈何セム
警察力充分ナラス若シ兵力ヲ用ヒスニテ濟
マハ勿論用ヒスニテ濟シタシ然レ萬一ノ事
變出来シタル際為スカ儘ニ任ストキハ遂ニ
ハ收拾スヘカラサルニ至ラン御説モ有ル如
ク戒嚴令ヲ布クハ決ニテ喜ニテ御賛成ヲ乞
フ次第ニモアラス勿論人心緩和ノ手段モ取
ラン考ナリ然レ如何ニシテモ行ケヌトナラ
ハ已ムヲ得ス之ニ處スルノ道ヲ有セサルハ

カラス決シテ戒嚴令ヲ以テ徒ラニ鎮壓スル
トカ暴壓スルトカ言フ譯ニアラサルナリ此
ノ點ハ閣下等ニ於テモ御安心アラシコトヲ
乞フ段々御議論モアリ當局者ニ於テモ前途
憂慮ニ堪ハサル次第ナルカ何卒唯今申上ケ
タル事情ヲ御諒察アリテ本案御賛成アラシ
コトヲ望ム

三十六番(野村) 御説明ヲ承リテ此ノ際已ハヲ
得スト思フニツキ賛成ス然レ一應本官ノ希
望ヲ述フ昨日ノ動搖モ講和談判ノ成行ヨリ

由來シタリト述ヘラレタルカ如何ニモ然ラ
ニ此ノ事タル新聞紙等ニモ種々ノ説アリ講
和ノ事タル善カレ惡カレ内閣ニ於テ大責任
ヲ帶ヒテ決斷セラレタルハ全ク上陛下ニ對
シ又國家ニ對シテ最モ忠ナルモノトシテ行
ハレタルナラン然ルニ我々顧問官ヲ始トシ
何人モ其講和ノ次第ヲ詳細ニ承知セス一般
國民ノ何等知ル所ナキハ尤千萬ナリ之カ為
ニ昨今ノ事態發生シタルモノニシテ其ノ情
實ニ憫諒スヘキナリ單ニ野心者ヲ壓抑シタ

ルノミニテハ治マリカ付クモノニアラス人
ノ希望スル所ハ他ニ非ス國ノ為メト信シテ
斷行スル上ハ其ノ精神ヲ貫ク手段ナカルヘ
カラス而シテ講和談判モ最早事カ定マリシ
ナラハ此ノ道ヲ取ルコトノ利益ナルコトヲ
明ニシテ全國津津浦浦ヲモ之ヲ了解セシ
ムルノ手段ヲ取ラレタシ其ノ手段如何ハ行
政上ノ事ナルユエ本官敢テ述ヘサルモ是レ
本官ノ希望ナリ今日ハ騷動モ府下ノミニ止
マリ居レルモ全國各地都テ此ノ如キ状態出

来スルコトアルヤモ圖ルヘカラス何トナレ
ハ今回ノ戦争ヲ為メ其ノ子ヲ失ヒ其ノ夫ヲ
失ヘル者比々皆然リ此等ノ者カ野心家ニ教
唆セラルルトキハ無論如何ナル無分別ヲ仕
出来カスヤモ知レサルナリ故ニ此ノ際小細
工ハ無用ナリ坦懷以テ精神ヲ貫クヘキノミ
敢テ内閣諸公殊ニ内務大臣ニ希望ス

二十九番(九鬼)議長ニ御尋セシ戒嚴令ト新聞
紙雜誌ノ取締ノ案トハ同時ニ採決セラルル
ヤ